

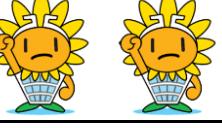
■使用評価マニュアル: 北九州市建築物総合環境性能評価制度マニュアル

■使用評価ソフト: CASBEE北九州_2014(v2.0)

1 建物概要

建物名称	(仮称)建デポハ幡東区春の町店	BEE	1.1	BEEランク	B+	★★★
------	-----------------	-----	-----	--------	----	-----

2 重点項目への取組み度

重点項目	得点 [*] /満点	取組み度	評価
1 循環型社会への貢献	3.0 /5		ふつう 
2 地球温暖化対策の推進	3.5 /5		ふつう 
3 豊かな自然環境の確保	2.0 /5		がんばろう 
4 高齢社会への対応	3.0 /5		ふつう 
※ 対応するCASBEEのスコア(平均)を5点満点で表示します。(スコア1.0=1点、スコア5.0=5点)	評価 凡例	よい 4 点以上	ふつう 3 点以上
			がんばろう 3 点未満

3 設計上の配慮事項とCASBEEのスコア

使用CASBEE評価マニュアル: CASBEE-建築(新築) 2016年版	使用CASBEE評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2016(v.4.0)
1 循環型社会への貢献	スコア平均 3.0
リサイクルに関する配慮	長寿命化に関する配慮
LR2/ 2 非再生性資源の使用量削減	スコア 2.6 Q2/ 2.2 部品・部材の耐用年数
	スコア 3.1 Q2/ 3 対応性・更新性
LGS下地を採用している。	スコア 3.3
	階高5.30m
2 地球温暖化対策の推進	スコア平均 3.6
省エネ・省資源に関する配慮	節水に関する配慮
LR3/ 1 地球温暖化への配慮	スコア 4.1 LR2/ 1.1 節水
スコア 3	
ライフサイクルCO2排出率 72%	<自由記述>
3 豊かな自然環境の確保	スコア平均 2.0
生態系保全に関する配慮	緑化に関する配慮
Q3/ 1 生物環境の保全と創出	スコア 1 Q3/ 3.2 敷地内温熱環境の向上
	スコア 2 LR3/ 2.2 温熱環境悪化の改善
	スコア 3
<自由記述>	見付面積比 47.01%
4 高齢社会への対応	スコア平均 3.0
バリアフリーに関する配慮	主な指標
Q2/ 1.1.3 バリアフリー計画	建物の外皮性能 (BPI評価)
スコア 3	非住宅:BPI値、住宅:省エネ等級
	スコア 0.9
<自由記述>	建物の一次エネルギー消費量 (BEI評価)
	非住宅:BEIm値、住宅: -
	スコア 0.67
	外構緑化指數
	スコア 0 %
	建物緑化指數
	スコア 0 %



: 入力欄



: CASBEE-建築(新築)の採点結果から転記してください。

CASBEE®-建築(新築) | 評価結果 |

■使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2016年版 | 使用評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2016(v4.01)

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	(仮称)建デボハ幡東区春の町店新	階数	地上1F
建設地	福岡県北九州市八幡東区春の町5丁目	構造	S造
用途地域	市街化区域	平均居住人員	8人
地域区分	6地域	年間使用時間	5,110時間/年(想定)
建物用途	物販店	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2023年4月 予定	評価の実施日	2022年11月7日
敷地面積	5,333 m ²	作成者	高原 大輔
建築面積	2,400 m ²	確認日	2022年11月7日
延床面積	2,400 m ²	確認者	高原 大輔

2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

BEE = 1.1

S: ★★★★★ A: ★★★★ B: ★★★ B+: ★★ C: ★

2-2 ライフサイクルCO₂(温暖化影響チャート)

30%: ★★★★★ 60%: ★★★★ 80%: ★★★ 100%: ★★ 100%超: ★

標準計算

項目	建設	修繕・更新・解体	運用	オンライン	オフサイト
①参照値	100%				
②建築物の取組み	72%				
③上記+②以外の	72%				
④上記+	72%				

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO₂排出量の目安で示したものです。

2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

2-4 中項目の評価(バーチャート)

Q 環境品質	Q1 室内環境	Q2 サービス性能	Q3 室外環境 (敷地内)
Q1のスコア = 3.2	音環境: 3.2, 温熱環境: 3.1, 光・視環境: 3.0, 空気質環境: 3.5	機能性: 2.6, 耐久性: 2.8, 対応性: 3.3	生物環境: 1.0, まちなみ: 2.0, 地域性: 1.5
Q2のスコア = 2.8			
Q3のスコア = 1.5			

LR 環境負荷低減性	LR1 エネルギー	LR2 資源・マテリアル	LR3 敷地外環境
LR1のスコア = 4.2	建物外皮の: 4.0, 自然エネ: 3.0, 設備システム: 5.0, 効率的: 3.0	水資源: 3.0, 非再生材料の: 2.6, 汚染物質: 2.7	地球温暖化: 4.1, 地域環境: 3.4, 周辺環境: 3.0
LR2のスコア = 2.7			
LR3のスコア = 3.5			

3 設計上の配慮事項

総合
高い外皮性能、効率の良い設備機器を使用しており、エネルギー消費、環境負荷低減になるよう設計されている。

その他
特になし。

Q1 室内環境
全面的にF★★★★を使用している。

Q2 サービス性能
天高、階高にゆとりがあり、利用者にとって広く感じる空間になるよう努めている。

Q3 室外環境 (敷地内)
建物がまちなみや風景にバランスよく調和されている。

LR1 エネルギー
高い外皮性能を高め、建築物を運用する際に発生するエネルギー消費を低減する取り組みに努めている。

LR2 資源・マテリアル
LGS下地を採用している。

LR3 敷地外環境
ライフサイクルCO₂の排出量が、一般的な建築物と同等であり、地球温暖化への配慮を行っている。

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)

■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)

■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される

CASBEE-建築(新築)2016年版
(仮称)建テボハ幡東区春の町店新築工事

■使用評価マニュアル CASBEE-建築(新築)2016年版
■評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2016(v4.01)

スコアシート 実施設計段階		環境配慮設計の概要記入欄	評価点	重み 係数	評価点	重み 係数	全体
配慮項目	実施設計段階						
Q 建築物の環境品質							2.6
Q1 室内環境				0.40			3.2
1 音環境			3.2	0.15			3.2
1.1 室内騒音レベル	—		3.0	0.40			
1.2 遮音	—		3.0	0.40			
1.2.1 開口部遮音性能	—		3.0	1.00			
1.2.2 界壁遮音性能	—		—	—			
1.2.3 界床遮音性能(軽量衝撃源)	—		—	—			
1.2.4 界床遮音性能(重量衝撃源)	—		—	—			
1.3 吸音	天井でグラスウール断熱材壁でロックウール断熱材を使用		4.0	0.20			
2 溫熱環境			3.1	0.35			3.1
2.1 室温制御			3.3	0.50			
2.1.1 室温	—		3.0	0.50			
2.1.2 外皮性能	加重平均レベル4.9		4.9	0.17			
2.1.3 ゾーン別制御性	—		3.0	0.33			
2.2 湿度制御	—		3.0	0.20			
2.3 空調方式	—		3.0	0.30			
3 光・視環境			3.0	0.25			3.0
3.1 昼光利用			3.0	0.50			
3.1.1 昼光率	—		—	—			
3.1.2 方位別開口	—		—	—			
3.1.3 昼光利用設備	—		3.0	1.00			
3.2 グレア対策			—	—			
3.2.1 昼光制御	—		—	—			
3.3 照度	—		—	—			
3.4 照明制御	—		3.0	0.50			
4 空気質環境			3.5	0.25			3.5
4.1 発生源対策			4.0	0.50			
4.1.1 化学汚染物質	F☆☆☆☆を全面的に使用		4.0	1.00			
4.2 換気			3.0	0.30			
4.2.1 換気量	—		3.0	0.50			
4.2.2 自然換気性能	—		—	—			
4.2.3 取り入れ外気への配慮	—		3.0	0.50			
4.3 運用管理			3.0	0.20			
4.3.1 CO ₂ の監視	—		3.0	0.50			
4.3.2 喫煙の制御	—		3.0	0.50			
Q2 サービス性能			—	0.30	—	—	2.8
1 機能性			2.6	0.40			2.6
1.1 機能性・使いやすさ			3.0	0.40			
1.1.1 広さ・収納性	—		—	—			
1.1.2 高度情報通信設備対応	—		3.0	1.00			
1.1.3 パリアフリー計画	—		—	—			
1.2 心理性・快適性			2.6	0.30			
1.2.1 広さ感・景観	天井高さ6.15m		5.0	0.33			
1.2.2 リフレッシュスペース	—		2.0	0.33			
1.2.3 内装計画	—		1.0	0.33	1.0	—	
1.3 維持管理			2.0	0.30			
1.3.1 維持管理に配慮した設計	—		2.0	0.50			
1.3.2 維持管理用機能の確保	—		2.0	0.50			
2 耐用性・信頼性			2.8	0.30			2.8
2.1 耐震・免震・制震・制振			3.0	0.50			
2.1.1 耐震性(建物のこわれにくさ)	—		3.0	0.80			
2.1.2 免震・制震・制振性能	—		3.0	0.20			
2.2 部品・部材の耐用年数			3.1	0.30			
2.2.1 軸体材料の耐用年数	—		3.0	0.20			
2.2.2 外壁仕上げ材の補修必要間隔	—		3.0	0.20			
2.2.3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔	—		3.0	0.10			
2.2.4 空調換気ダクトの更新必要間隔	ステンレスを採用		4.0	0.10			
2.2.5 空調・給排水配管の更新必要間隔	—		3.0	0.20			
2.2.6 主要設備機器の更新必要間隔	—		3.0	0.20			
2.4 信頼性			2.0	0.20			
2.4.1 空調・換気設備	—		3.0	0.20			
2.4.2 給排水・衛生設備	—		2.0	0.20			
2.4.3 電気設備	—		1.0	0.20			
2.4.4 機械・配管支持方法	—		3.0	0.20			
2.4.5 通信・情報設備	—		1.0	0.20			

3	対応性・更新性		3.3	0.30	-	-	3.3
	3.1 空間のゆとり	階高5.30m	4.2	0.30	-	-	
	1 階高のゆとり		5.0	0.60	-	-	
	2 空間の形状・自由さ		3.0	0.40	-	-	
	3.2 荷重のゆとり		3.0	0.30	-	-	
	3.3 設備の更新性		3.0	0.40	-	-	
	1 空調配管の更新性		3.0	0.20	-	-	
	2 給排水管の更新性		3.0	0.20	-	-	
	3 電気配線の更新性		3.0	0.10	-	-	
	4 通信配線の更新性		3.0	0.10	-	-	
	5 設備機器の更新性		3.0	0.20	-	-	
	6 バックアップスペースの確保		3.0	0.20	-	-	
Q3 室外環境(敷地内)			-	0.30	-	-	1.5
1	生物環境の保全と創出		1.0	0.30	-	-	1.0
2	まちなみ・景観への配慮		2.0	0.40	-	-	2.0
3	地域性・アメニティへの配慮		1.5	0.30	-	-	1.5
	3.1 地域性への配慮、快適性の向上		1.0	0.50	-	-	
	3.2 敷地内温熱環境の向上		2.0	0.50	-	-	
LR 建築物の環境負荷低減性			-	-	-	-	3.5
LR1 エネルギー			-	0.40	-	-	4.2
1	建物外皮の熱負荷抑制	BPI=0.84	4.0	0.20	-	-	4.0
2	自然エネルギー利用		3.0	0.10	-	-	3.0
3	設備システムの高効率化	BEI=0.67	5.0	0.50	-	-	5.0
4	効率的運用		3.0	0.20	-	-	3.0
	集合住宅以外の評価		3.0	1.00	-	-	
	4.1 モニタリング		3.0	0.50	-	-	
	4.2 運用管理体制		3.0	0.50	-	-	
	集合住宅の評価		-	-	-	-	
	4.1 モニタリング		-	-	-	-	
	4.2 運用管理体制		-	-	-	-	
LR2 資源・マテリアル			-	0.30	-	-	2.7
1	水資源保護		3.0	0.20	-	-	3.0
	1.1 節水		3.0	0.40	-	-	
	1.2 雨水利用・雑排水等の利用		3.0	0.60	-	-	
	1 雨水利用システム導入の有無		3.0	0.70	-	-	
	2 雜排水等利用システム導入の有無		3.0	0.30	-	-	
2	非再生性資源の使用量削減		2.6	0.60	-	-	2.6
	2.1 材料使用量の削減		2.0	0.10	-	-	
	2.2 既存建築躯体等の継続使用		3.0	0.20	-	-	
	2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用		3.0	0.20	-	-	
	2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用		1.0	0.20	-	-	
	2.5 持続可能な森林から産出された木材		2.0	0.10	-	-	
	2.6 部材の再利用可能性向上への取組み	LGS下地を採用	4.0	0.20	-	-	
3	汚染物質含有材料の使用回避		2.7	0.20	-	-	2.7
	3.1 有害物質を含まない材料の使用		3.0	0.30	-	-	
	3.2 フロン・ハロンの回避		2.6	0.70	-	-	
	1 消火剤		2.0	0.33	-	-	
	2 発泡剤(断熱材等)		3.0	0.33	-	-	
	3 冷媒		3.0	0.33	-	-	
LR3 敷地外環境			-	0.30	-	-	3.5
1	地球温暖化への配慮	ライフサイクルCO2排出率 72%	4.1	0.33	-	-	4.1
2	地域環境への配慮		3.4	0.33	-	-	3.4
	2.1 大気汚染防止	燃焼機器を使用していない	5.0	0.25	-	-	
	2.2 温熱環境悪化の改善		3.0	0.50	-	-	
	2.3 地域インフラへの負荷抑制		2.7	0.25	-	-	
	1 雨水排水負荷低減		3.0	0.25	-	-	
	2 汚水処理負荷抑制		3.0	0.25	-	-	
	3 交通負荷抑制	適切な量の駐車スペースの確保	4.0	0.25	-	-	
	4 廃棄物処理負荷抑制		1.0	0.25	-	-	
3	周辺環境への配慮		3.0	0.33	-	-	3.0
	3.1 騒音・振動・悪臭の防止		-	-	-	-	
	1 騒音		-	-	-	-	
	2 振動		-	-	-	-	
	3 悪臭		-	-	-	-	
	3.2 風害、砂塵、日照阻害の抑制		3.0	0.67	-	-	
	1 風害の抑制		3.0	0.70	-	-	
	2 砂塵の抑制		3.0	-	-	-	
	3 日照阻害の抑制		3.0	0.30	-	-	
	3.3 光害の抑制		3.0	0.33	-	-	
	1 屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策		3.0	0.70	-	-	
	2 曜光の建物外壁による反射光(グレア)への対策		3.0	0.30	-	-	